

南高等学校・南高等学校附属中学校  
中高一貫教育推進プラン

令和6年8月  
横浜市教育委員会

# 目 次

---

第 1	はじめに .....	1
第 2	推進プランの作成にあたって .....	2
第 3	取組内容 .....	4
1	南高校・南高校附属中学校が目指す資質・能力の育成のために.....	4
2	南高校・南高校附属中学校が目指すグローバルリーダーの育成のために .....	7
3	中高一貫教育校としての強みを生かすために.....	11
第 4	スケジュール.....	13

# 第1 はじめに

---

南高校・南高校附属中学校は、横浜市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が、より魅力ある市立高校を目指して様々な高校改革を進める中で、市立中高一貫教育校という新たな選択肢を市民に提供するために、平成24年4月に本市で初めての併設型の中高一貫教育校として設置されました。

附属中学校の開校後、学校は、「学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成」、「自ら考え、自ら行動する力の育成」、「未来を切り拓く力の育成」という3つの教育目標等「横浜市立中高一貫教育校基本計画（以下「基本計画」という。）」で示された方針の下、附属中学校の「総合的な学習の時間（EGG）」、高校の「総合的な探究の時間（TRY&ACT）」を軸として、様々な教育活動を展開し、生徒の育成に取り組んできました。また、平成27年度から5年間、文部科学省からスーパーグローバルハイスクールの指定を受け、海外研修をはじめとする充実した教育活動を展開するなど、グローバルリーダーの育成にも力を入れて取り組んでいます。

令和5年度、教育委員会は、開校からこれまでの取組について検証を行いました。本推進プランは、この検証でまとめられた課題や今後の目指すべき方向性をもとに、具体的な取組や、取組の時期についての計画を示すものです。南高校・南高校附属中学校の中高一貫教育が更に充実し、より魅力ある学校となるよう、学校と教育委員会で連携して、取組を進めてまいります。

## 第2 推進プランの作成にあたって

令和5年度、教育委員会は、附属中学校設立時に策定した基本計画に定められた設置の目的・教育目標等の達成状況を振り返り、課題や今後の目指すべき方向性を整理し、南高校・南高校附属中学校の中高一貫教育を更に充実させることを目的として検証を行い、「南高等学校及び南高等学校附属中学校における中高一貫教育に関する検証報告書」（以下「検証報告書」という。）をまとめました。

検証にあたっては、次の論点を設定し、これらの論点の検証材料として、これまでの学校の取組やデータ、生徒や教職員、保護者等へのアンケート調査・ヒアリング調査結果等を用いて分析を行い、今後の方向性について整理しました。

### ○ 検証の論点

#### 論点1：教育目標及びスクール・ミッション※1の達成状況

論点1-1：教育目標及びスクール・ミッションの実践状況

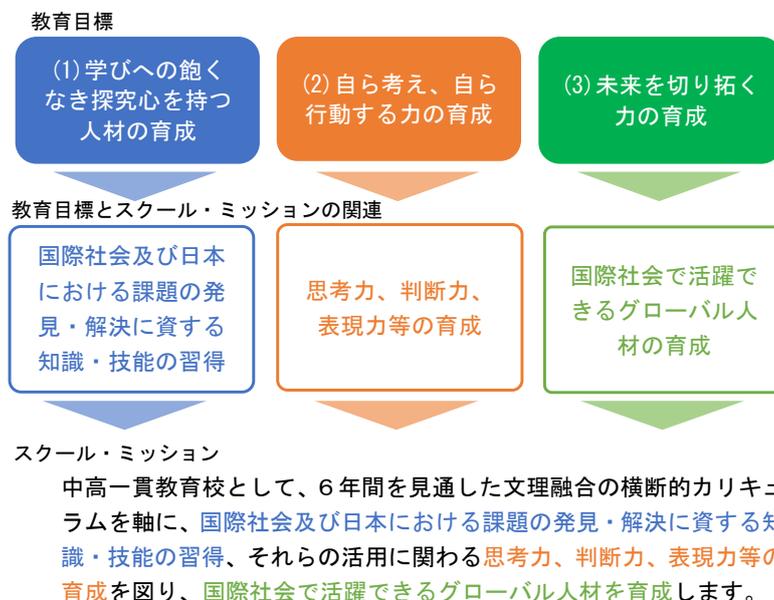
論点1-2：グローバルな視点の定着、グローバル教育実践状況

#### 論点2：併設型中高一貫教育校としての取組

論点2-1：入学時期の違いによる教育的効果

論点2-2：併設型中高一貫教育校としての運営状況

### ○ 教育目標とスクール・ミッションの関連



※1 スクール・ミッション

各高校が育成を目指す資質・能力を明確にする前提として、設置者（教育委員会等）が各高校の存在意義や各高校に期待されている社会的役割、目指すべき高校像を再定義したものを。横浜市では、各校の状況を踏まえて、令和4年3月に策定した。

## ○ アンケート調査

- ・ 調査対象と有効回答者数  
生徒 843 人、教職員 74 人、保護者 562 人、同窓会 17 人、後援会 6 人
- ・ 調査方法  
WEBアンケート形式等
- ・ 調査期間  
令和 5 年 7 月 12 日～令和 5 年 8 月中旬

## ○ ヒアリング調査

- ・ 調査対象  
高校の生徒、附属中学校・高校の教職員
- ・ 調査方法  
グループヒアリング
- ・ 調査日  
令和 5 年 7 月 26 日

本推進プランでは、検証報告書でまとめられた課題や今後の目指すべき方向性をもとに、教育目標、スクール・ミッションの達成に向けて、更に前進させるために、次の 3 つの項目に整理し、今後の具体的な取組や、取組の時期についての計画を策定しました。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 南高校・南高校附属中学校が目指す資質・能力の育成のために</li><li>2 南高校・南高校附属中学校が目指すグローバルリーダーの育成のために</li><li>3 中高一貫教育校としての強みを生かすために</li></ol> |
|--|

# 第3 取組内容

## 1 南高校・南高校附属中学校が目指す資質・能力の育成のために

### (1) 現状と課題

南高校・南高校附属中学校では、「総合的な学習の時間（EGG<sup>※2</sup>）」・「総合的な探究の時間（TRY&ACT<sup>※3</sup>）」、各教科等における探究的な学び、学校行事や部活動などの多様な教育活動等を通じて、教育目標である「学びへの飽くなき探究心を持つ人材の育成」、「自ら考え、自ら行動する力の育成」、「未来を切り拓く力の育成」が図られており、スクール・ミッションに示された資質・能力の育成についても同様に行われています。これらの取組は、質の高い学びによる高い学力の習得につながり、横浜市学力・学習状況調査<sup>※4</sup>や実用英語技能検定（英検）の実施結果、生徒が希望する進路の実現について成果が見られます。

一方、教職員のアンケート調査では、6年間を見通した文理融合の横断的カリキュラムの編成、6年間を見通した体系的な学習指導、キャリア教育、特別活動の実施について、十分に「編成されている」「実施されている」と感じている教員は少なく、また、学校評価において、「総合的な学習の時間（EGG）」と「総合的な探究の時間（TRY&ACT）」について、中高の接続や一貫性についての課題が指摘されています。

今後、南高校・南高校附属中学校の中高一貫教育をより充実していくために、6年間を見通したカリキュラムの再編成、探究活動の見直しを行う必要があります。

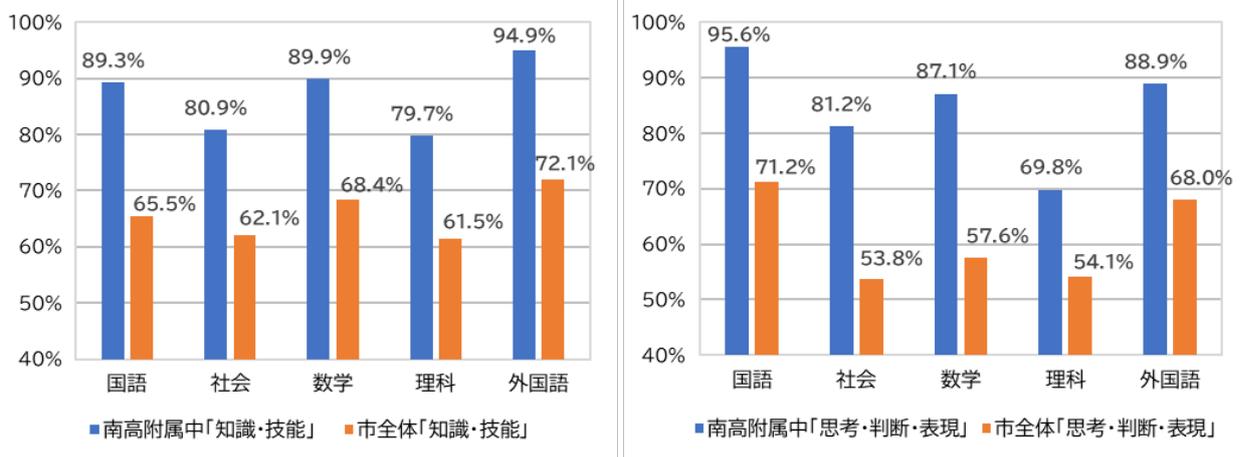


図 横浜市学力・学習状況調査 各教科平均正答率（令和5年度・中3）

※2 EGG

南高校附属中学校の「総合的な学習の時間」の通称。

※3 TRY&ACT

南高校の「総合的な探究の時間」の通称。

※4 横浜市学力・学習状況調査

児童生徒の学力や学習状況を把握することで、各学校における授業改善や学校の運営改善、児童生徒の学習改善につなげることを目的として、横浜市が独自に実施する調査。「知識・技能」と「思考・判断・表現」を問う問題で構成されている。

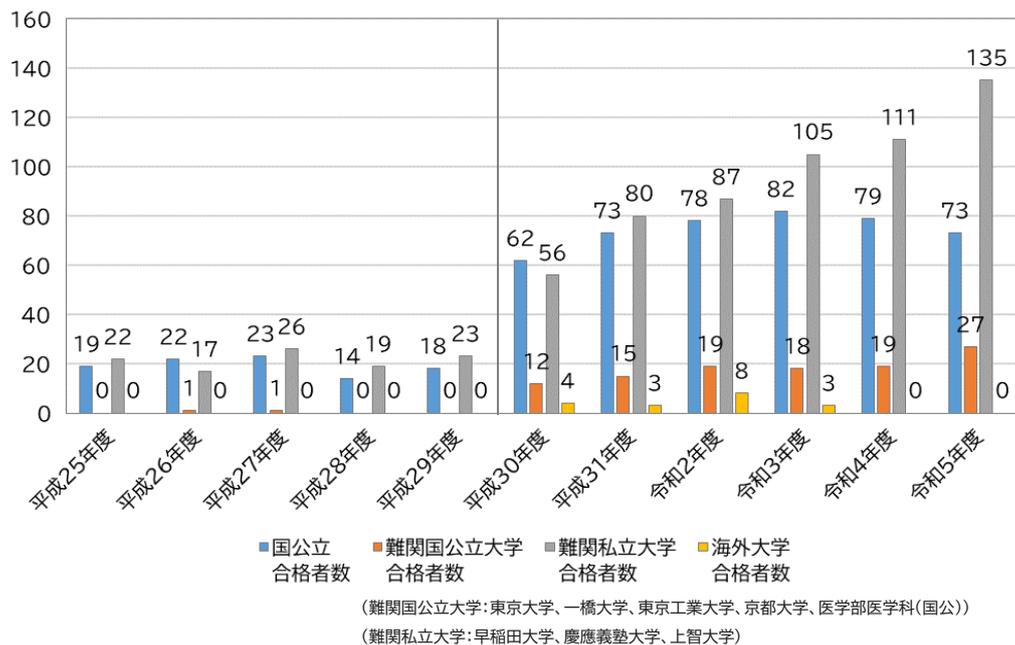


図 年度別大学群別合格者数（人）

3. (1)南高等学校・附属中学校では、中高一貫教育校としての6年間を見通した文理融合の横断的カリキュラムが編成されていると思いますか？

教職員アンケート

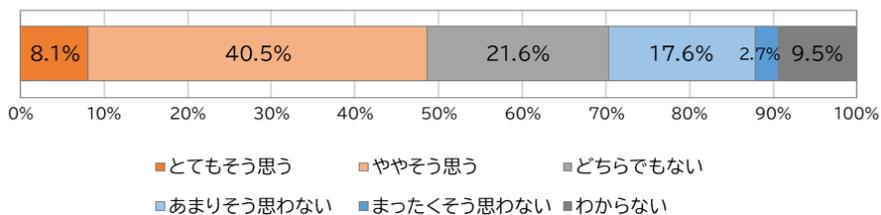


図 アンケート調査結果（教職員）

(2) 今後の取組

○6年間を見通したカリキュラムの再編成

南高校・南高校附属中学校が一体となり、6年間一貫して学ぶことの長所を更に生かせるよう、カリキュラムの再編成を行い、附属中学校の令和8年度入学生から実施します。カリキュラムの編成にあたっては、個別最適な学びと協働的な学びの充実の観点も踏まえ、育成する資質・能力を明確にし、中高一貫教育校における教育課程の基準の特例の活用も含めて検討します。

令和5年度入学生から令和7年度入学生については、中高の接続期となる中学校3年生からの学びの連続性を踏まえたカリキュラムを令和7年度から実施します。

取組		令和6年度	令和7年度	令和8年度
6年間を見通したカリキュラムの再編成	令和5～7年度入学生	○検討	○実施	
	令和8年度入学生	○検討		○実施

○6年間を見通した探究活動の充実

6年間の継続した探究活動ができるよう、中学校段階の「総合的な学習の時間（E G G）」から高校段階の「総合的な探究の時間（TRY&ACT）」までの学びを一体化し、令和8年度から実施します。

取組		令和6年度	令和7年度	令和8年度
6年間を見通した探究活動の充実		○検討		○実施

## 2 南高校・南高校附属中学校が目指すグローバルリーダーの育成のために

### (1) 現状と課題

スクール・ミッション「国際社会で活躍できるグローバル人材の育成」については、4技能<sup>※5</sup>をバランスよく育成する英語教育に加え、「総合的な学習の時間（E G G）」や「総合的な探究の時間（T R Y & A C T）」、横浜スーパーグローバルハイスクール<sup>※6</sup>（横浜 S G H）、国際交流、海外研修等の取組を通して生徒の実践的な英語力の育成やグローバルな視点の定着が図られてきました。その結果、中高ともに、令和4年度に目標の英検の取得率<sup>※7</sup>を達成するなど、成果を上げています。また、生徒や教職員のアンケート調査結果からは、生徒のグローバルへの意識が高いことがわかりました。

こうした生徒の意識を、海外大学への進学・留学・仕事での国際的な活躍という将来の目標に更につなげ、「南高校が目指すグローバルリーダー<sup>※8</sup>」を育成していくために、取組を充実させていく必要があります。

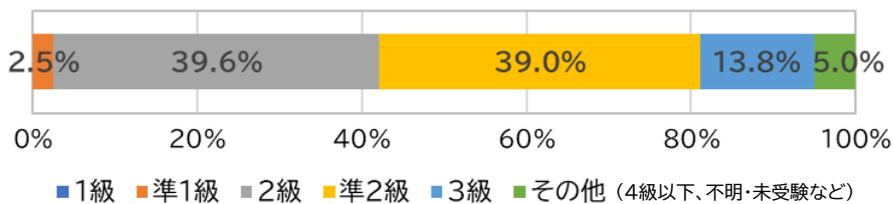


図 南高校附属中学校における中学校3年生学年末時点での英検取得率（令和4年度）

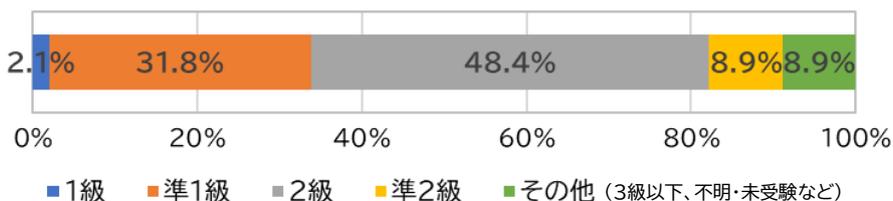


図 南高校における高校3年生学年末時点での英検取得率（令和4年度）

※5 4技能

「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能。

※6 横浜スーパーグローバルハイスクール（横浜 S G H）

文部科学省が、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高校段階から育成することを目的に実施した「スーパーグローバルハイスクール（S G H）」事業の5年間の指定終了後、取組を継続・発展させるために横浜市が実施している事業。

※7 英検の取得率

南高校附属中学校では、中学校卒業時の学年全体に占める準2級以上の取得率の目標を80%としている。

南高校では、高校卒業時の学年全体に占める2級以上の取得率の目標を80%としている。

※8 南高校が目指すグローバルリーダー

- 横浜から日本を牽引しようとする高い志を持つ生徒
- 国際社会の発展に寄与できるリーダーとなる生徒
- グローバル社会での将来像を描く生徒
- 主体的に学び、自ら探究する生徒

3. (4) 諸外国の国民性、文化、慣習の違いについて、関心を持っていますか？ **生徒アンケート**



2. (4) 南高等学校・附属中学校の生徒は、グローバルな視点があると思いますか？ **教職員アンケート**



5. (4) 将来は、留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考えていますか？ **生徒アンケート**

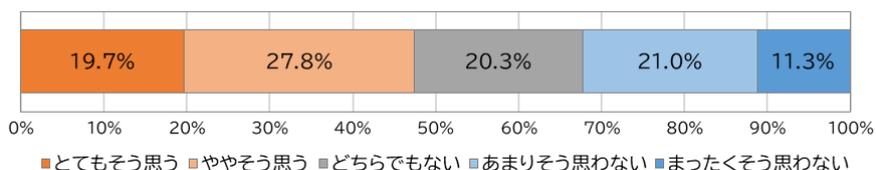


図 アンケート調査結果（生徒・教職員）

## (2) 今後の取組

### ○6年間を見通したキャリア教育の充実

生徒が中学生段階から高校卒業後を見据え、グローバルな視野をもって自身の将来を描いていけるよう、教育活動全体で6年間を見通した体系的なキャリア教育の充実を図ります。

取組	令和6年度	令和7年度	令和8年度
6年間を見通した キャリア教育の充実	● ○検討	→ ○充実	→

### ○英語活用機会の充実

グローバルリーダーとして必要な実践的な英語力を更に伸ばさせるため、探究活動において英語による発表・意見交換・議論を行うなど英語の活用機会の充実を図ります。

取組	令和6年度	令和7年度	令和8年度
英語活用機会の充実	● ○検討	→ ○充実	→

## ○国際交流等の海外プログラムの充実

生徒が海外に対するイメージを具体化し、グローバルへの意識を自身の将来の意向・目標につなげられるよう、国際交流等の取組の充実を図ります。

令和6年度には、高校のカナダ・バンクーバー市の姉妹校ポイントグレイ・セカンダリー・スクールへの訪問を再開します。また、令和8年度には、附属中学校3年生の同市への海外研修を再開します。カナダ・バンクーバー市は、多様性が特徴の一つであり、生徒が多くの気づき・学びを得ることが期待できる都市であること、海外との交流においては、相手との良好な関係の構築がプログラムの効果的な実施につながることから、これまでの交流を軸として活動を充実させます。

横浜スーパーグローバルハイスクール（横浜SGH）の取組については、多様な文化・価値観を理解し、グローバルな視点に立った課題発見解決力、異文化コミュニケーション力を兼ね備えたビジネスリーダーの育成を目的として、ニューヨークでの研修を新規に実施します。

その他、世界の高校生とのオンライン交流等を通して、生徒が多様な価値観に触れる機会を積み重ねていけるよう取組を進めます。

取組		令和6年度	令和7年度	令和8年度
国際交流等の 海外プログラムの 充実	海外研修	○準備		○実施
	姉妹校交流	○訪問・受入実施		
	横浜SGH	○継続実施 ○ニューヨーク研修新規実施		

### ○国際教育機関等との連携

国際都市横浜の強みを生かし、国際教育機関等と連携し、留学生等との交流を行うなど、生徒の成長段階に合わせた国内での交流機会や体験プログラムの充実を図ります。

取組	令和6年度	令和7年度	令和8年度
国際教育機関等との連携	○検討	○充実	

### ○海外大学進学支援・留学支援の充実

海外大学進学支援プログラムの拠点校として培ってきた経験や利点を生かし、生徒のニーズに合わせ、海外大学への進学をより一層支援します。また、本市の留学支援の取組と連携し、高校での留学に向けた支援の充実を図ります。

取組	令和6年度	令和7年度	令和8年度
海外大学進学支援・ 留学支援の充実	○検討	○充実	

### 3 中高一貫教育校としての強みを生かすために

#### (1) 現状と課題

高校のクラス編成・教育課程について、附属中学校1期生から3期生は、高校2年時まで中入生と高入生を別クラスで編成し、先取り学習<sup>※9</sup>を行っていましたが、4期生からは、高校入学時から中入生・高入生の混合クラス編成とし、先取り学習は行わず、学習内容の深掘りを行ってきました。この変更を行って以降、高校では、異なる環境で学んだ生徒同士が、お互いを認め尊重し合い、切磋琢磨しながら充実した学校生活を送っている様子が伺えます。

しかし、高校の生徒アンケート調査では、中入生と高入生で授業に対する感じ方に違いも見られました。こうした状況は、計画的な学習支援をきめ細かく実施しても生じていることから、改めて対策を検討する必要があります。

また、教職員のアンケート調査では、6年間を見通した文理融合の横断的カリキュラムの編成、6年間を見通した体系的な学習指導、キャリア教育、特別活動の実施について、「とてもそう（編成・実施されている）思う」と答えた教職員は1割程度であり、中高ともに一定数の教職員が、附属中学校と高校の連携について改善が必要と感じていることがわかりました。

中高一貫教育校としての強みを生かし、今後、教育目標、スクール・ミッションの達成に向けて、更に前進させるためには、6年間の一貫した教育課程の再編成、中高の連携強化、グローバルリーダーの育成に向けた取組を一層充実させていく必要があります。

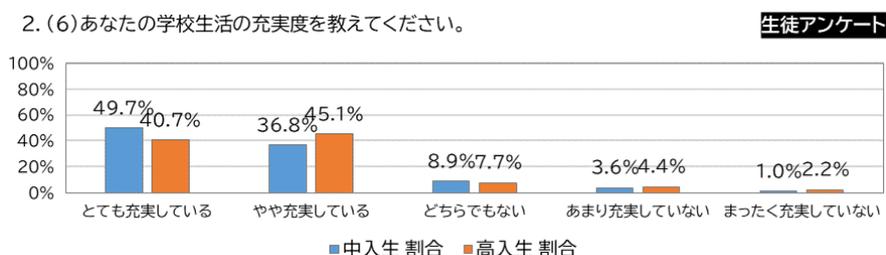


図 アンケート調査結果（生徒）

※9 先取り学習

ここでの「先取り学習」とは、中高一貫教育における教育課程の基準の特例を活用した学習内容の先取りのこと。

## (2) 今後の取組

### ○高校・附属中学校の連携体制の強化

高校と附属中学校がより一層連携し、教育活動や生徒指導を行い、6年間一貫して生徒を育成していくために、中高の教員の相互乗り入れ授業の更なる実施、中高一貫教育校内の人事交流の制度を活用した職員配置、学校運営組織の見直しを行うなど、教職員が一体化して教育活動を行う体制の強化を図ります。相互乗り入れ授業については、中学校3年生と高校1年生の中高接続の学年から充実を図ります。

取組	令和6年度	令和7年度	令和8年度
高校・附属中学校の連携体制の強化	○検討	○実施	

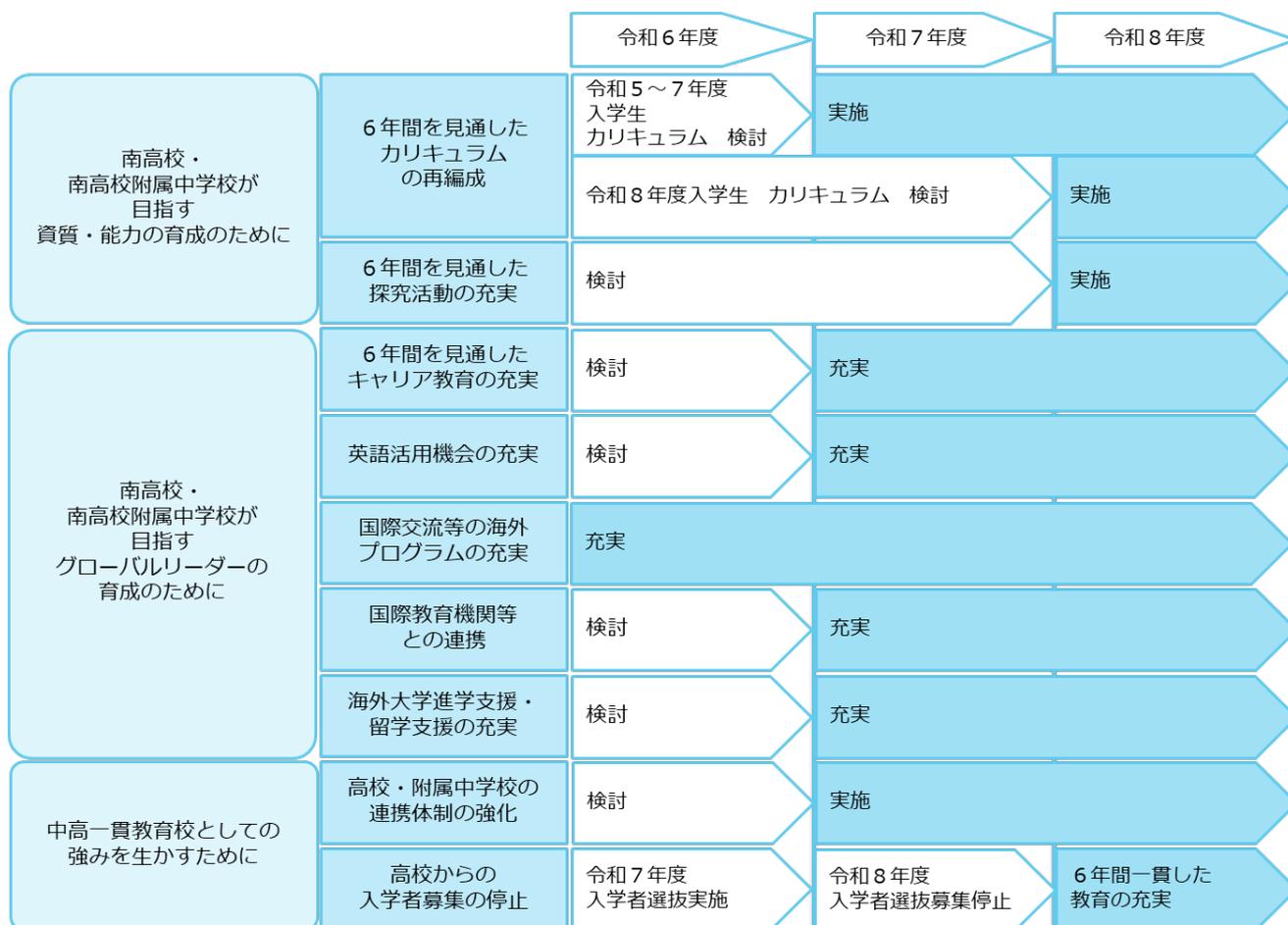
### ○高校からの入学者募集の停止

教育目標、スクール・ミッションの達成に向けて、更に前進させるため、令和8年度入学者選抜（令和7年度実施）から高校の募集を停止し、附属中学校・高校が一体となり、6年間一貫して生徒を育成します。

附属中学校からの募集定員については、学校施設の使用状況や、今後県内の公立中学校の卒業生数が減少していく状況も踏まえ、変更は行わず、現行の学校施設を活用し、少人数授業等の教育活動を継続しながら、個別最適な学び・協働的な学びの充実を図ります。

取組	令和6年度	令和7年度	令和8年度
高校からの入学者募集の停止	○令和7年度入学者選抜実施	○令和8年度入学者選抜募集停止	○6年間一貫した教育の充実

## 第4 スケジュール



# 南高等学校・南高等学校附属中学校 中高一貫教育推進プラン

令和6年8月

横浜市教育委員会事務局高校教育課

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10

電話 045(671)3272

FAX 045(640)1866